

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400161		
法人名	社会福祉法人神門福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームかんの里(きずなユニット)		
所在地	島根県出雲市神門町13番地5		
自己評価作成日	令和5年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400161-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和5年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の「出来る事」「やりたい事」「分かる事」を大切し日々のケアを行い信頼関係の構築に努めている。 現在はコロナウイルス感染拡大のため家族や地域との交流に制限があるが工夫を凝らし関わりを保てるようにしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>令和2年4月から開設された新しいユニットのグループホームです。 「尊厳」「家庭的な雰囲気」「安心」「絆」の4つの基本理念に基づき運営されており、理念を実践するための毎月の目標も作られています。 開設以来コロナウイルス感染防止対策のため、自由に面会していただけない家族には担当が毎月行事や生活の様子等をお便りにして送られています。 不適切な言葉かけやケアがないか、日頃から職員間で気をつけ利用者との信頼関係が築けるよう努めておられます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4つの理念を念頭に置き支援を行っている。また理念を基に月の目標を定め業務に取り組んでいる。	「尊厳」「家庭的な雰囲気」「安心」「絆」という基本理念に基づき、月目標を作成し、理念と共に事務所内に掲示され、いつでも確認できるよう取組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス拡大の為地域との交流が出来ていない。 地域の保育園とは行事の際ビデオレターや手作りの作品を通して交流を図っている。	現在はコロナ禍のため地域の方々との交流は難しい状況ですが、保育園とのビデオレターや作品のプレゼントの交流は行われています。また、地域行事の際に作品展示という形で参加されています。R5年度は従来からの小学校との交流も復活予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染拡大の為、地域との交流もなくB型サロンも開催出来なかった。 随時入居相談などは電話相談は受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催して意見交換をしている。 現在コロナウイルス感染拡大の為、書面による報告、意見募集を行った。	コロナ禍のため2ヶ月に一度書面開催で行なわれています。資料を送付後には、市役所からの意見を返してもらわれています。R5年度は対面で行なわれる予定です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的介護相談員の方が訪問を受け、終了後に意見交換を行っている。 毎月入退去の報告書を出雲市に提供し待機者数の管理に協力している。	定期的介護相談員の訪問があり、状況の説明や利用者の話を聞かれ気付き等、ホームと意見交換して頂きサービス向上に活かされています。市役所とは入退去者の報告をされ待機者の管理に協力されるなど連携されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的内部研修を行い理解を深めている。 またユニット会議などで身体拘束特にスピーチロックに関する事例が無い確認、意見交換を行っている。 センサーを使用する際も家族に相談、報告を行い使用している。	身体拘束廃止委員会が設置されており、年4回開催されています。身体拘束をしないケアに努めておられます。転倒事故防止のためのセンサーマットを使用される時には手順に則り、家族の同意・記録当が適切に行われ、使用されています。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待防止について理解を深めている。また不適切なケアや声掛けをしていないか職員同士確認出来る様に月の目標を設定している。管理者、リーダーから個別に注意する事もある。また職員同士でも悩みや意見を言えるように努めている。	虐待防止委員化の設置もあり、年4回開催されています。ケアカンファレンス・職員会議等でも気になることがあれば、声掛けやケアの方法について検討され、虐待防止に努めておられます。現在はオンラインでの外部研修が中心です。	虐待の芽チェックリストを活用され、振り返りを行なわれることに期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会が無い為職員の理解は乏しく活用が難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書の説明を行い同意を頂き契約者を作成している。入居後に起こりえる事に関しても事前に説明し同意・納得を頂いている。また随時質問等に対して丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で利用者の意見、要望を聞きそのことが実現出来るように努めている。また表現できない方には日々の反応を観察し不快なケアにならないように心掛けている。家族来訪時に意見、要望を聞いている。	利用者には日々の暮らしの中から、意見・要望を伺うようコミュニケーションが図られています。家族についてはコロナ禍で面会制限が続いており、短時間で玄関先で話を聞かれたり、ケアプラン変更時に意見・要望を伺っておられます。毎月通信を送付され、日頃の様子を伝えておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行い管理者、施設長も参加して意見交換をしている。また随時個別でも意見、提案を聞き入れ業務や他部署との連携を円滑に行うようにしている。	風通しの良い職場環境を目指しておられますが、現在コロナ対策や利用者への支援優先されている事もあり、意見交換が難しい状況です。今年度開設来の入居者が全て入れ替わられた事もあり、リノベーションリーダーを配置され従来からの行事の見直しに取組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望や負担を考慮した勤務を組み業務をしやすい環境作りを努め、日々の関わりから実績や努力を認めている。	個々の職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方になるよう努めておられますが、現在職員数の充実に向けて、職場環境の整備に向け取り組まれています。	個々の職員への面談は行われていませので、管理者と共に目標設定、振り返りの機会を持たれることに期待します。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、内部、外部と研修が難しいが出席できる研修には参加している。オンライン研修を導入したが職員間で進捗に差がある。	コロナ禍になり、外部研修の受講が難しいため、オンデマンドによる施設内研修を今年度は導入されました。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染拡大の為、法人内での交流は控えており外部の同業者との交流はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問して本人の状況や意見、要望を聞き生活状況の把握して初期計画書を作成している。 入居後は本人の思いなどを傾聴し信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みより困っている事や不安な思いを傾聴し思いを受け止めて要望に答えられる様に努めている。 またコロナ禍のため面会制限があるが随時電話でも相談や意見を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がどのような生活を送りたいのか把握して必要な支援を行えるようにしている。家族には必要としている支援を行えるように本人の情報を提供して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を見極め過度なケアにならないように努めている。 当番制で家事をして頂いたり、居室の掃除など無理のない範囲で活動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染拡大の為面会が制限されているが電話、手紙で家族との関係を切り離さないようにしている。 また職員からもこまめに連絡をし協力関係を気づき安心に繋げるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染拡大の為、馴染みの友人との交流は出来ていない。 馴染みの場所にドライブに行っている。	コロナ禍の中、感染対策を行ないながら馴染みの場所へドライブを中心に出掛けておられます。また、かかりつけ医に受診されることによるつながりも大切にされています。家族や知人へのお便りや電話での交流も積極的に行われています。	昔話をして頂くきっかけ作りとして回想法に繋げ利用者の思いや意向に繋がっていくと良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格など考慮し席替えを行って会話が弾む様にしている。共同作業で食堂に飾る壁画を作り連帯感を持って頂いている。 また自ら話す事が出来ない方でも一緒に活動の輪に入り孤立感が出ない様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナウイルス感染拡大のため退去後は関わりがなくなった。 入院中は紙面で情報提供、電話でのやり取りに限られていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で本人の思いや発言、表情などに気を付け記録を残し職員欄でも共有して本人本位な暮らしが出来る様に努めている。また定期的にケアカンファレンスを行いケアプランを見直し家族とも情報を共有している。	日々の暮らしの中から利用者とコミュニケーションを多くとり、24時間シートにも記録され、利用者の思いや意向が汲み取れるよう努めておられます。意思表示の難しい方の場合には、日々の表情や家族からの意見等を聞きながら検討しておられます。	本人の理解できる、生きるための目標につなげていけると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族から生活歴や趣味など聞き取りケアに反映しているまた担当ケアマネジャー、利用していたサービス事業所などからも情報を聞き取り状況把握に努めている。入居後も日常の会話から暮らし方や思いをくみ取る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を記録に残し、業務前には申し送りをして現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿ってケアが出来ているか毎日確認をしている。3ヶ月毎にケアマネジャー、担当職員を中心に職員間でケアプランの見直しをして意見交換している。また本人、家族からも話を聞きケアプランに反映している。	3ヶ月ごとにケアカンファレンスを行ない、評価・見直しが行われています。状態変化があれば都度職員間で話し合い見直しが行われています。プラン変更時には、本人・家族からの意見・要望を聞き取り、プランに反映されます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や些細な事でも記録に残し職員間で情報を共有しているのでカンファレンスの時に意見交換がしやすくなっている。記録はタブレットを使用しているのでバイタルや水分量、排泄関係は一目で分かる様になっている。	記録はタブレットで行なわれており、バイタル・水分摂取量・排泄状況等の情報共有がスムーズに行なわれています。計画作成責任者から変更点や特記事項については伝えられています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルス感染拡大のため行動に制限があるが出来る範囲で本人、家族の要望の対応に努めた。家に帰りたい思いには馴染みの場所やご自宅周辺にドライブや散歩などに行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染拡大の為馴染みの友人との交流や地域の行事も中止になり加出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を確認し在宅時の医療が継続出来る様にしている。また事業所の提携医を希望される時は4週間毎に訪問診療に来て頂き連携を取っている。また体調を崩されたり不穏な時・急変時に利用者の各かかりつけ医に電話で相談を行っている。	本人・家族の希望を優先され殆どの方が月1回の往診に来て頂ける事業所の協力医を希望されています。往診の無い従来からのかかりつけ医や他科への受診の際には、原則家族に同行受診をお願いされます。家族同行の場合にはホームでの様子を書面にし医療機関に提出されます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活での様子を介護職と情報を共有している。また健康面で変化があれば随時、報告、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報交換をし早期退院に努めている。また情報を速やかに提供できるように月に一回情報提供書を見直ししている。地域医療連携部門との連携も行っている。	地域連携室のソーシャルワーカーと情報交換を行わない連携し早期退院を目指されています。退院前にも連携室とカンファレンスを退院後のケアについて情報手協頂いておられます。コロナ禍の為にカンファレンスは書面が中心となっています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は重度化や終末期の方はおられないが今後の為家族と話し合いあいを検討している。健康面に何かあれば随時家族に報告、相談している。	利用開始時から、利用者・家族等に看取りについての説明を行ない同意を得ておられます。重度化し終末期が近付いてきた段階で主治医の意見、ほめめの可能な対応を説明し、家族の思い・要望を聞きその後の方針が決定されます。医療行為によってはホーム出対応できない場合もあることについても説明されます。ターミナルケアのオンライン研修が行われました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナウイルス感染拡大のため救急法の研修は出来ていない。ひやり・はっと、事故報告を職員間で共有し事故予防に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行うい災害時の対応を学んでいる。また連絡網を作成し災害時の協力体制をとれるようにしている。	年2回の避難訓練が実施されており、連絡網を作成され災害時の協体制がとれるようにされています。事業継続計画(BCP)は現在作成中です。今年度は地震対応マニュアルの整備を行ない、備蓄の用意の検討も行われました。	事業継続計画(BCP)については、早期の策定を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを出しすぎて丁寧な言葉遣いが崩れる事がある。利用者の尊厳保持の為に職員間で言葉遣いの注意が出来るよう月の目標を掲げている。	理念にも掲げられおり、必要以上に馴れ馴れしい言葉遣いにならないよう気を付けておられます。個々の利用者の尊厳とプライバシー確保に気を付けながら、特にトイレ誘導や更衣時の声掛けには気を付けておられます。トイレはそれぞれの居室に備え付けてあり、プライバシーの確保もできています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かする時には必ず「何をしたいのか」「どうしたいのか」伺い利用者に決定権があるように努めている。また言葉でうまく伝えられない方には複数の提案をし返答しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のスケジュールは決まっているがそれ以外の時間では個々の日課や好きな場所で過ごして頂いている。レクリエーションや共同で作業する時も個々の体調や気分など考慮して活動をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はご自分で選んで来て頂いている。ご自分で選択出来ない方には季節やその方の好み考慮して選んでいる。 日頃から身だしなみには注意をはらいみだれていたら直している 定期的散髪も依頼し清潔感を保っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや盛り付けと一緒に食事への意欲を高めている。 野菜を栽培しその野菜を収穫ら調理をして食べる楽しみを作っている。	メインは併設特養の厨房より届きますが、炊飯やお汁はホームで行なわれており、それぞれが役割を持たれ、台所で一緒に調理される方や盛り付け、片付けをされる方もあります。コロナ禍の為外食に出かけられない状況の中、テイクアウトも行われました。鍋料理、ホットプレートを使ってのおやつ作りも行われています。お誕生日には豪華なおやつが提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、食事形態は個々に合わせて提供している。食事量、水分量は記録に残し日々の経過を観察している。 水分が取れるように食事や喫茶以外の空き時間にも飲み物を勧めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前は必ず嗽を行い口腔内の清潔を保つようにしている。食後は状態に合わせて口腔ケアを実施している。義歯の方は夕食後に入れ歯洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。	介護度が高く、うがいも難しい方もありますが、個々の状態に合わせ自身で歯磨き、仕上げ磨き、介助等必要な支援を行ない、清潔保持ができるよう努めておられます。入れ歯の方は夜間に洗浄液に漬けて消毒しておられます。歯科はそれぞれが希望する歯科医院を受診されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄の記録を残して個々の排泄パターンの把握し適切な声掛け、誘導をしている。 オムツやパットを使用している方には本人の状態にあう物を使用している。	できるだけ最期までトイレでの排泄が継続できるように心掛けておられます。日々の排泄記録から個々の排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導、介助等が行われています。排泄輸御品の選定についても居室担当者を中心に話し合い検討しておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄の記録を残して排便の感覚を観察している。起床時は牛乳を飲んで頂いたり、水分量の把握、適度な運動を行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中、夜間で入浴を行い出来るだけ希望の時間に入れるようにしている。 利用者の羞恥心を考慮して同性介助を心掛けている。	月～土週2回が目安で入浴頂いています。できるだけ希望の時間に入って頂けるように職員配置等も検討しておられます。希望があれば同性介助にも対応しておられます。拒否傾向の方もいるが、タイミングを変えたり、職員を変える工夫をされ対応が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人給休息する時間が違うのでその方が気持ちよく休めるように個別で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について理解や確認出来る様に薬情は直ぐに確認出来るようにしている。 誤薬などの間違えがないように二重確認、声を出して名前、日付けの確認をしている。	薬の情報もタブレット内のお薬手帳のアプリと連動されており薬の用法や副作用等についても分かりやすくなっています。服薬が変更になった際にもタブレットで情報共有され、利用者の状態観察を行ない、変化があればすぐに医師に連絡されています。誤薬がないようにダブルチェックを行ない、声を出して名前・日付の確認しておられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣や得手不得手があるのでその方にあつた作業をして頂いている。 生活歴などを反映し昔仕事にしていた事を作業や活動に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染拡大のため本人の希望にそつと外出支援や外部との交流は出来ない。 ドライブやホーム敷地内の散歩は行っている。	コロナ禍のため、希望通りの外出は難しいですが、ドライブに出かけたり、本人の希望でお墓参りに行かれた方もありました。お天気の良い日は近所の散歩も行っておられます。これからは、徐々に以前の日常が戻って来ると考えますから、それに対応して従来の様に出掛けられる予定となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設側で管理している。 コロナウイルス感染拡大のため外出しご自分で買い物をする機会がないのでお金を遣う事がない。必要な物は家族か職員が預り金から購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状、日常的に手紙のやり取りを行っている。電話も本人希望時や家族と電話をする曜日を決めて話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では温度、湿度、明るさが過度な状態にならないように努めている。 季節感のある壁画やオーナメントを飾ったり生花を飾り四季を感じれるようにしている。	温度・湿度・換気にも気を付け、利用者がくつろいで過ごして頂けるような共有空間作りに努めておられます。壁面には季節を感じて頂けるような壁画やオーナメントが飾られたり、季節の生花が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しゆっくり話ができる空間や日当たりの良い窓の近くに椅子を設置して外を眺めれる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族と相談しながら使い慣れた物を設置したり家族の写真を貼っている。またご自分で制作したオーナメントを飾っている。	家族にも依頼し本人の馴染みのある物や家族写真を持って来て頂き、居心地の良い居室作りが行なわれています。また、自身で作成したオーナメントが飾られています。居室担当を中心に、居室内の整理整頓や利用者の動線を考えた家具のレイアウトも行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで要所には手すりを設置し安全に歩行で来るようにしている。また大きなカレンダーや時計を設置し、自分で気付いて行動出来る様に工夫している。		